

ワイドパネルを使用した42型のプラズマディスプレイ。同社には、他にもALIS方式の高精細パネルを採用したハイエンドモデルがある。そのモデルは、BSハイビジョン放送の画質を重視した作りになつていて、それに対し、本機のNTSC信号の画質については、徹底的に練りあげ、特にDVD映画ソフトの再生に関しては、素晴らしい次元にまで到達した。

私がチェックした、本機最大の特長は、映画ソフトに最適の映像モードを用意したことである。

本機には、「ダイナミック」「ファンタジック」「リアル」「リアル2」「スタティック」という5つの映像モードが設けられている。このうち、映画再生に適しているのが「ファンタジック」である。これを選択すると、極めてフィルムライクな画質が得られる仕組みになっている。このモードを起点として画質調整を行えば、映画が求められる画質が容易に得られるようになるのだ。

映画作品のルックは一本一本違うが、「ファンタジック」モード内では、画調がそれほど大きく逸脱することはない。一旦このモードに設定してから、コントラスト、明るさ、色の濃さ、色あいなどを調整していくけば、ほとんどすべての映画映像に適応できる。

このモードでは、一般的にプラズマ準としている「ダイナミック」モー

ディスプレイが苦手とされるナイトシーンなど暗い画面でも、黒つぶれ（黒に近い暗部までが黒くなる）や、黒浮き（黒が明るく浮き上がる）などを避けることができ、黒に近いところでの微妙な明暗差まで表現することができるようになる。また、肌色が乗りすぎることもなく、白人の顔色のヌケのよさ、白い肌の透明感なども、微妙に表出できる。

原理的には、フィルムの特性に合わせ、ディスプレイの特性を補正しているわけだが、それは実に大変な手間と時間がかかる作業だ。そして、映画映像についての豊富な知識と、それをビデオ化した時の性格についての豊かな見識が要求される。このモデルに技術者は見事にそれをなしとげたといつていい。

映画再生に特化したひと際魅力的なPDP



フィルムにこだわり続けた男が認めた映画画質がPDS 4233 J-Sに確かに宿されている



PDS 4233 J-S

オープン価格（希望小売価格を定めていません）
富士通ゼネラル

SPEC

- 画面サイズ：921×518mm ●画素数：水平852×垂直480 ●表示色：1677万色 ●入力端子：コンポジットビデオ1系統、Sビデオ1系統、D4端子1系統、RGB D-subミニ15ピン1系統、アナログRGB／コンポーネントビデオ1系統、DVI-D端子1系統
- 消費電力：305W ●外形寸法：1035W×640H×850mm ●質量：28.5kg ●問い合わせ先：株式会社富士通ゼネラル 映像情報事業部販売推進部 ☎044-861-7654

PRESENTED by 株式会社富士通ゼネラル

ドで見ると、色が濃厚に乗った極彩色の映像となる。もちろん画質調整でそれを緩和することはできるが、愛するナイトシーンでは、漆黒の闇から、ほの暗い庭の背景までの微妙な明暗差が、緻密に表現出来た。ここに切り替える。すると、映像のトーンががらりと変わり、自然な佇まいが画面に表れてくる。濃厚な肌色は、落ちついた自然な顔色となるし、ジユリア・ロバーツの白い肌が、実際に美しく再現されるようになる。木々の紅葉や落ち葉の色も、ごく自然な色あいで表現される。これは一般的な画質調整だけでは生まれない自然な映像だ。映画映像の素性を追求した上でこそ表れる自然な佇まいだ。

【恋におちたシェイクスピア】では、細かい刺繡を施した衣装の細部まで、微細に色が乗っているのがよく判る。シェイクスピアが、伯爵邸と表記されたポジションがあり、これを選ぶと、「レッド」「ブルー」「グリーン」の色温度を、それぞれ、0～255の範囲で調整することができるようになる。256ステップ（階調）の調整とは、極めてマニア

本機では、他のディスプレイでは補正しきれなかつた色あいが正しく補正できる。「13ディズ」の海の色、『センターステージ』のジーパンの色。「天と地」の緑の階調など、挑戦したい素材は無数にある。いずれじっくりと調整をしてみたい、そういう意欲がわきおこつてくる。

本機はプラズマディスプレイの中でも、ひと際、魅惑的なモデルである。本機で再生した映画ソフトの画質は、一目で私を捉える次元に達していた。映画再生に特化した本機の価値は非常に高い。